「こころの窓」歴史　　　　　　　　　　　No、３７

元気にしてますか。

では、そろそろ勉強をはじめましょう。

今日のお題は「市民革命（しみんかくめい）」です。

　今日から少しだけ、世界の歴史が大きく変わるので、ヨーロッパとアメリカの歴史を勉強します。

日本が戦国時代の頃、ヨーロッパでは、国王が自分勝手な政治をする絶対王政（ぜったいおうせい）の時代が続いていました。これは、国王が領土を広げるためにまわりの国と戦争をしたり、貴族がぜいたくな暮らしをするために、農民から高い税金を取り上げたりしました。そのために、農民たちの不満はだんだんと高まっていきました。

　そんな中で、まずはじめにイギリスで革命（かくめい）が起こりました。この革命というのは、身分の低い農民たちが、国を支配している国王を相手に反乱を起こし、国王を倒して農民（市民ともいいます）たちの国をつくることです。１６４２年にイギリスの国王チャールズ１世の勝手な政治に不満を持った市民が、反乱を起こし国王を倒しました。そして、市民の話し合いで政治を行うことができる、議会中心の国をつくりました。これを清教徒革命（せいきょうとかくめい）といいます。さらに、１６８８年に再び次の国王が勝手な政治をしたので、市民が反乱を起こして国王を追放しました。これを名誉革命（めいよかくめい）といいます。

　また、１７７５年には、イギリス市民が新しい国づくりを目指して、アメリカへ移住して生活をしはじめました。しかし、いつまでも高い税金を取られたので、本国であるイギリスからの独立を目指してアメリカ独立戦争が起こりました。そして、１７７６年には、「独立宣言（どくりつせんげん）」を発表して、イギリスから正式に独立し、アメリカ合衆国が誕生したのです。イギリスはアメリカの実家（じっか）なんですね。

独立宣言

　すべての人間は、生

まれながらにして平等であり、生命、自由、および幸福追求の権利を与えられている。

（一部要約）

　さらに、この独立戦争の影響を受けたフランスでも、革命が起こります。この当時フランスにはルイ１６世という国王が、自分勝手な政治をしていました。そこで、この政治に不満を持った市民たちが、１７８９年にフランス革命を起こしました。そして、革命は成功し「フランス人権宣言」が発表されました。この革命で、ルイ１６世とその王妃マリーアントワネットは処刑され、フランスでも、市民の話し合いで政治を行う国が生まれたのです。右に二つの宣言がありますが、比べてみると自由とか平等という言葉が書かれていますね。これらは革命によって、市民がつかんだ権利なのですね。それから、この四つの革命と戦争をあわせて、市民革命といいます。

人権宣言

１．人間は生まれながらにして、自由かつ平等な権利を持っている。

（一部要約）

　このフランス革命には少し続きがあり、革命は成功しますが、革命が広がるのを恐れた周りの国から、フランスは攻撃を受けることになるのです。しかし、そこにあの有名な英雄、ナポレオンが登場し、攻撃をはねのけてフランスは平和を取り戻すのです。

は～い。ではいつもの復習問題にチャレンジしてください！

復習問題

１．イギリスの清教徒革命とは、どのようなものかまとめてください。

２．アメリカの独立戦争とは、どのようなものかまとめてください。

３．フランスのフランス革命とは、どのようなものかまとめてください。

解答

１．１６４２年にイギリスの国王チャールズ１世の勝手な政治に不満を持って市民が反乱を起こし国王を倒しました。そして、市民の話し合いで政治を行うことができる、議会中心の国をつくりました。これを清教徒革命といいます。

２．１７７５年に、イギリス市民が新しい国づくりを目指して、アメリカへ移住して生活しはじめました。しかし、いつまでも高い税金を取られたので、本国であるイギリスからの独立を目指してアメリカ独立戦争が起こりました。そして、１７７６年には、「独立宣言」を発表して、イギリスから正式に独立し、アメリカ合衆国が誕生したのです。

３．フランスにはルイ１６世という国王が、自分勝手な政治をしていました。そこで、この政治に不満を持った市民たちが、１７８９年にフランス革命を起こしました。そして、革命は成功し「フランス人権宣言」が発表されました。

お疲れ様でした。

ではまた、「こころの窓」で会いましょう！